

機関番号：14301

研究種目：基盤研究 (B)

研究期間：2007～2010

課題番号：19320010

研究課題名 (和文) 中国印度宗教史とくに仏教史における書物の流通伝播と人物移動の地域特性

研究課題名 (英文) Regional Characteristics of Text Disseminations and Relocation of People in the History of Chinese and Indian Religions, with Special Reference to Buddhism

研究代表者

船山 徹 (FUNAYAMA TORU)

京都大学・人文科学研究所・教授

研究者番号：70209154

研究成果の概要 (和文)：

仏教を中心に、インドおよび中国の主要な各地域におけるテキストの成立と伝播の具体的様相を人物の地理的な移動と連関付けることにより、宗教文献における人物移動の重要性を具体的に指摘した。同様の事象を儒教、道教、イスラームの歴史についても考察した。またインドからチベットへ、インドから中国への移動経路や、中国内の主要諸地域についても移動ルートとの関係を可能な限り同定し、その意義を解明した。書物・思想の伝播と人物移動の連動性はどの宗教にも妥当するであろうが、遊行の伝統を重んじる仏教において特に顕著であった。

研究成果の概要 (英文)：

This research examined the relationship between disseminations of religious texts and geographical relocations of people with a special focus on Buddhism in India and China. Some relevant issues were scrutinized regarding historical aspects of Confucianism, Daoism and Islamic religion too. Geographical routes from India to Tibet and to China were taken up and identified wherever possible. A close relationship between relocations of people and disseminations of texts and thoughts should be pointed out in all religions but probably it is most remarkable in the case of Buddhism that made much of the significance of propagation realized by travels of monastics.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	4,200,000	1,260,000	5,460,000
2008年度	3,400,000	1,020,000	4,420,000
2009年度	2,900,000	870,000	3,770,000
2010年度	3,900,000	1,170,000	5,070,000
総計	14,400,000	4,320,000	18,720,000

研究分野：仏教学 (中国、インド)

科研費の分科・細目：哲学 (分科)・インド哲学・仏教学 (細目)

キーワード：仏教学 中国哲学 宗教文献

1. 研究開始当初の背景

本研究は、宗教的真理を記すテキストの成立普及の問題と、地理および人物に関する具体的歴史的状況という、一見無関係に見える事象の間に積極的意義を見出し、宗教文献研究とりわけ仏教文献研究における新たな視点を提示するものである。このような視点は、

文献に書かれた思想の内容に専ら研究の力点を据えた従来型の仏教文献学においては十分に意識されていなかったと言ってよい。また一方、これまでも仏教経典を対象とした写本や版本の書誌学的研究は盛んに行われてきたが、その際は「もの」としての書物の形態の解明に意が注がれることが多く、書

物と思想の中身との繋がりに対する視点は希薄であった。このような問題意識から、本研究は、思想を述べるテキストをその成立や伝播の具体的な状況と積極的に関連づけることによって、いわば「目に見えない」文化現象としての思想が、歴史社会の中にどのような形で存在したかを知るための視座の設定と基礎付けを試みる。

2. 研究の目的

本研究は中印交渉史の観点から、紀元後4世紀から9世紀頃を中心に、中国と、中国に関わる限りでのインドにおけるテキストの成立伝播問題に着目し、もの・情報としてのテキストがどのように具体的に移動したか、人物の移動といかに連動するかを解明を目指す。インドのナーランダー、カシュミール、ウジャイン、ガンダーラ等の諸地域の宗教的地域特性と Gupta 朝、パーラ朝等王朝との関係、および、中国の長安、洛陽、建康(南京)、広州、成都、荊州、姑臧(武威)、敦煌等の諸地域の特性とその相互交渉、南北朝期の人物移動のあり方、書物の伝播経路等について、諸地域の共通性と差異性を仏教を中心に考察することにより、仏教思想関連の動向を可能な限りリアルかつ動的、多角的に把握することを使命とする。

3. 研究の方法

6世紀以降の中国仏教史において重要となるインド唯識思想の輸入と伝播のあり方という問題を、6世紀のインド僧である真諦三蔵の事跡と彼らの活動のもとになったインドの唯識系大乘仏教、そして7世紀以降への影響、またそれに先行する5世紀の戒律文献の成立と流伝等を軸として多角的に分析し、人物の移動ルートを確認し、同時代主要各地の地域特性と諸地域の人物の出入りとその意義を考察する。さらにまた、梁の慧皎『高僧伝』、梁の僧祐『出三蔵記集』、唐の道宣『続高僧伝』等における関連情報を収集整理し、それらを基礎的史料として、特に4-9世紀頃の中国仏教関連原典における書物の伝播と人物移動に関する実態解明を試みる。以上を行うことにより明らかになし得るテキストの成立地と伝播地に関する情報は、文献を正しく読み解くことと直結する。本研究は、思想という形の見えない文化現象が、当時の社会の中にどのように存在したかを知るための視座を提供しようとするものである。

4. 研究成果

(1) 研究代表者と研究分担者が定期的に集まり、討論する場として真諦三蔵の事績に関する研究会を定期的に開催して討議を行ったほか、以下の如く、各人が個別的研究を担当した。①船山徹は、インド仏教と中国仏教

における地域の特徴と関わる諸事象について、多様な観点から考察を行った。まずインド各地の特性研究として、インド大陸全体の歴史的な地域区分、仏教関連の主要な地名である中天竺、ガンダーラ、カシュミール、南インド、ヴァラビー等のそれぞれの地域特性と関連を検討した。とりわけ南インドの区域とその思想史的意義を新出大乘思想の登場という観点から指摘した。また学術的仏教の中心地としてのナーランダー大寺院(中天竺)の重要性に着目し、ナーランダーを出身地とする諸論師の確定、他の地域との連関(特にカシュミールとの関係)、ナーランダーにおける学術的な仏教活動の特徴を検討した。そしてその関係から、8世紀後半の大仏教哲学者シャーンタラクシタとその直弟子カマラシーラの活動地に関しても果たして本当にナーランダーだったかという点について資料的問題が残っていることをも確認した。インドからチベットへの伝播ルートとして、吉隆(キロン)の重要性に焦点を当てた。インドから中国への移動経路として、今まで不明な点が多かった「河南道」と「西涼州」という二つの語に注目し、それらについて現時点で分かる事柄の一次資料を集めし論点を整理した。また南方経由の情報が集積し中国各地に伝わる地域として広州の重要性を指摘し、広州を北上して大庾嶺を山越えて長江に到る内陸移動経路に特に注意を向け、その経路においては大半が河川によって移動が可能であることをも指摘した。『高僧伝』他の資料を用いて、中国内の地域特性の基本を長安、建康、荊州、成都など土地ごとに検討し、あわせて複数地域間の相互連関と移動経路について整理した。以上の諸点について、「インド中国における仏教文献の伝播と仏教徒の地理的移動に関する基礎知識」と題する論文をまとめ、研究成果報告書(本項末尾を参照)に収めた。またさらに、書物の伝播と関わる問題として中国における大蔵経の最初期の成立状況、石刻仏教経典のもつ文献学的意義、菩薩階位説をめぐる仏教と道教の交渉についても考察を及ぼし研究発表をした。②稲葉稯は、アフガニスタン、カシュミール、チベット間の相互交渉について歴史宗教学的観点から考察し、それらを複数の英文論文と和文論文において発表した。③古勝隆一は、儒教における地域性を主題として、隋代とその直前の儒学の学派的広がり地域との関係について山東省の重要性に着目し、関連の論文および発表を行った。④麥谷邦夫は、南北朝時代に国境を越えて移動した仏教僧曇鸞に着目し、道教との関係を考察する論文を発表した。

(2) また、これらの研究を遂行するに当たって開催した研究会における討議を通じて、宗教と地域の特徴の問題は、とりわけ仏教に

において重要であり、他方、仏教僧のように各地を遊行する伝統のない儒教や道教の場合には、地域性や地域間の交渉の様子は仏教ほどには顕著でないことが確認された。

(3) 本研究の一環として4人の海外研究協力者を招へいし、公開講演会を開催して、それぞれの分野における最新の情報交換と討議とを活発に行った。以下に4人の講演の骨子を説明する。①タンセン・セーン教授は、“Buddhism and the Indian Ocean Crossings (仏教とインド人の海路横断)”と題する英語の講演を行い、インド仏教を中心とするインド人の宗教および商業ネットワークの緊密な関係について歴史学的に考察した。②ジンホア・チェン教授は、“Buddhabhadra’s (359-429) Collaboration with Huiyuan (334-416) in Transplanting the Nagarahara Image-cave to China: A Reexamination (ナガラハラ仏影窟の中国導入における仏駄跋陀羅(359-429)と慧遠(334-416)の共同作業——再考)”と題する英語の講演を行い、西北インドから内陸アジアを経て長安に伝えられた仏教情報としてブダバドラ(仏駄跋陀羅、5世紀初頭)の事績に注目し、その活動地等に関して新たな解釈を示した。③ヘルムート・クラッサー博士は、“Bhaviveka, Dharmakīrti and Kumarila (バーヴィヴェーカ、ダルマキールティ、クマーリラ)”と題する英語の講演を行い、6-7世紀の南インドにおける仏教の唯識学派ダルマキールティと仏教の中観派バーヴィヴェーカ、およびミーマーンサー学派のクマーリラの間を思想的交渉に関する斬新な見解を発表した。④ジョンナサン・シルク教授は、“Significance of Buddhist Scriptures 仏典の意義と重要性”と題する英語の講演を行い、初期インド大乘経典の成立問題を漢訳仏典との関連から考察した。

(4) 以上の研究成果の詳細な報告書として、6本の日本語論文と7本の英語論文を収める以下の報告書を出版し、成果を開示した。『中国印度宗教史とくに仏教史における書物の流通伝播と人物移動の地域特性 Regional Characteristics of Text Dissemination and Relocation of People in the History of Chinese and Indian Religions, with Special Reference to Buddhism, 課題番号 19320010 平成19年度～平成22年度科学研究費補助金(基盤研究(B))研究成果報告書 平成23年3月 March, 2011 研究代表者 船山 徹 FUNAYAMA Toru 京都大学 人文科学研究所教授』(総ページ数330ページ)。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計23件)

- ①Toru Funayama, The Work of Paramārtha: An Example of Sino-Indian Cross-cultural Exchange, *Journal of the International Association of Buddhist Studies*, 査読有, 31-1/2, 2010, 141-183
- ②船山徹「梵網經諸本の二系統」、『東方学報』京都、査読有、85、2010、179-211 [http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/131759]
- ③稲葉穂「泥執考」、『東方学報』京都、査読有、85、2010、692 [73]-674 [91] [http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/131759/browse-date?top=2433%2F131782]
- ④稲葉穂「8世紀前半のカーブルと中央アジア」、『東洋史研究』、査読有、69-1、2010、151-173
- ⑤麥谷邦夫「吳筠事跡考」、『東方学報』京都、査読有、85、2010、243-270 [http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/131759]
- ⑥古勝隆一「『隋書』経籍志史部と『史通』雑述篇」、『東方学報』京都、査読有、85、2010、213-241 [http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/131759]
- ⑦船山徹「『如是我聞』か『如是我聞一時』か—六朝隋唐の『如是我聞』解釈史への新視角」、『法鼓仏学学報』、査読有、1、2007、241-275 [http://www.ddbc.edu.tw/zh/academic_publishing/class_test_20071220.html]
- ⑧稲葉穂「ヤカウラングとリパーテ・カルヴァーン—ハザーラジャート北部の歴史地理」、『オリエント』、査読有、50-1、2007、53-79

〔学会発表〕(計24件)

- ①Toru Funayama, “New Perspectives and Progress on the Studies of Paramārtha,” *Reading under the Lines: Some Cutting-edge Progresses in Buddhist Philology and Manuscriptology, Reports from Japan*, 2011年3月26日、プリティッシュ・コロンビア大学アジア・スタディーズ(カナダ国バンクーバー)
- ②Minoru Inaba, “Arab soldiers in China at the time of An-shi Rebellion.” *Shifting Frontiers: Current issues in the history of Early Islamic Central Asia*, 2010年12月17日、Leiden Institute for Area Studies (オランダ)
- ③古勝隆一「論魏晋南北朝之積奠」、中古時代の礼儀、宗教与制度学術研討会、2010年11月7日、復旦大学歴史学系(上海市)
- ④Funayama Toru, “Buddhist Theories of Bodhisattva Practice as Adopted by

Taoists," *Buddhism, Daoism, and Chinese Religion, International Conference, Princeton University*, 2010年10月8日、プリンストン大学宗教学センター(アメリカ合衆国ニュージャージー州プリンストン)

⑤Funayama Toru, "Chinese translations of *pratyaksa*," *Indian Buddhist Thought in 6th-7th Century China. International Workshop 2010*, 2010年3月27日、国立政治大学(台湾台北市)

⑥船山徹「梵網経下巻先行説の再検討」、戒律文化研究会第8回学術大会、2009年11月8日、唐招提寺(奈良市)

⑦船山徹「大乘律を作りたかった人々—菩薩地から梵網経へ」、東方学会第58回会員総会、2009年11月6日、日本教育会館(東京都)

⑧Minoru Inaba, "Nezak in Chinese Sources?", *Iranian Huns and Western Turks: Archaeology—Art History—Numismatics*, 2008年11月18日、歴史芸術博物館(Kusthistorisches Museum)、(オーストリア国ウィーン)

⑨Toru Funayama, "Two Recensions of the *Fanwang jing* and the Significance of a Tang Version in the Fangshan Stone Sutras" *Buddhist Epigraphy in China: State of the Field and New Methodologies*, 2008年7月6日、ハイデルベルク大学芸術史研究所(ドイツ国ハイデルベルク)

⑩船山徹、ナーランダーの学術仏教とカマラシーラの認識論、第53回東方学会会議開催部会、2008年5月24日、京都市国際交流会館(京都市)

⑪Funayama Toru, "The Work of Paramartha: An Example of Sino-Indian Cross-cultural Exchange," *IKGA Symposium. Early Chinese Buddhist Translations*, 2007年4月21日、オーストリア学術アカデミー(オーストリア国ウィーン)

[図書](計9件)

①吉川忠夫・船山徹、岩波書店、『高僧伝(四)』、2010、520

②Michael Alram, Deborah Klimburg-Salter, Minoru Inaba, Matthias Phisterer (eds.), *Coins, Art and Chronology II: The First Millennium C.E. in the Indo-Iranian Borderlands*, Austrian Academy of Science, 2010, pp. 191-202, pp. 443-455.

③吉川忠夫・船山徹、岩波書店、『高僧伝(三)』、2010、462

④吉川忠夫・船山徹、岩波書店、『高僧伝(二)』、2009、316

⑤吉川忠夫・船山徹、岩波書店、『高僧伝(一)』、2009、444

⑥武田時昌・富谷至・船山徹・井波陵一『漢籍はおもしろい』、研文出版、2008、pp. 71-118

⑦小谷汪之、稲葉穰、他、山川出版社、『南アジア史2』(世界歴史大系)、2007、63-101

[その他]

ホームページ等 特になし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

船山 徹 (FUNAYAMA TORU)
京都大学・人文科学研究所・教授
研究者番号: 70209154

(2) 研究分担者

稲葉 穰 (INABA MINORU)
京都大学・人文科学研究所・教授
研究者番号: 60201935
麥谷邦夫 (MUGITANI KUNIO)
京都大学・人文科学研究所・教授
研究者番号: 90114678
古勝隆一 (KOGACHI RYUICHI)
京都大学・人文科学研究所・准教授
研究者番号: 40303903
坂内栄夫 (SAKAUCHI SHIGEO)
岐阜大学・教育学部・教授
[H19年度のみ研究分担者]
研究者番号: 90225780

(3) 連携研究者

石井公成 (ISHII KOSEI)
駒澤大学・仏教学部・教授
[H19年度のみ研究分担者]
研究者番号: 10176133
中西啓子 (NAKANISHI KEIKO)
新潟大学・人文学部・教授 [同上]
研究者番号: 00143743
室寺義仁 (MUROJI YOSHIHITO)
高野山大学・文学部・教授 [同上]
研究者番号: 00190942
吉村 誠 (YOSHIMURA MAKOTO)
駒澤大学・仏教学部・准教授 [同上]
研究者番号: 60298106

海外研究協力者

タンセン・セーン (Tansen Sen) ニューヨーク市立大学バルク校・歴史学部・准教授
(アメリカ合衆国)
ジンホア・チェン (Jinhua Chen) ブリティッシュコロンビア大学・アジア学・准教授
(カナダ)
ヘルムート・クラッサー (Helmut Krasser)
オーストリア学術アカデミー・アジア精神史文化研究所・所長 (オーストリア)

ジョナサン・A・シルク (Jonathan A. Silk)
ライデン大学・人文学部・教授 (オランダ)